

小中一貫校問題

瀬戸らしい教育って？小中一貫校をバラ色でえがくが・・・

学校統廃合・小中一貫校を2020年度開校へしやにむに走る瀬戸市・瀬戸市教育委員会。「子どもたちの未来に向けて、瀬戸らしい教育を創造し、魅力ある学校づくりを目指す」とあるが、国(文科省)の動きに呼応し地域・市民へ

の十分な説明もなく不安の声がある。また、地域・まちづくりや教育的な観点から疑問視する声も広がっている。しかしながら、「行政が決めることで既に決まったのではないか」という市民の声もある。この問題は、住民・市民の意思や教職員の専門性が大きく問われるものである。

学校は単なる公共施設ではない

山本由美和光大学教授の指摘を紹介する。

○「小中一貫校の教育的効果も、文科省が強調する中1ギャップの解消も、統計などで実証されていない。にもかかわらず全国各地で進められ、保護者や地域住民から疑問の声が相次いでいる。財政的なメリットだけでなく、安易に統廃合を進めるのは、教育行政上、問題がある」

○「学校は単なる公共施設で

700平方メートルになる。

●少子化進み決断

●中一ギャップ対策

小中一貫教育を制度化した改正学校教育法が今年4月に施行され、義務教育を一貫した教育課程(カリキュラム)で学ぶ小中一貫校が増えつつある。一方「学校の統廃合が進み、教育の質が下がる」として反対する住民もいる。東京都杉並区教委は2019年4月に高円寺に小中一貫校を開校する予定だが、現在も一部住民が反対し、義務教育を巡る意見は対立したままだ。

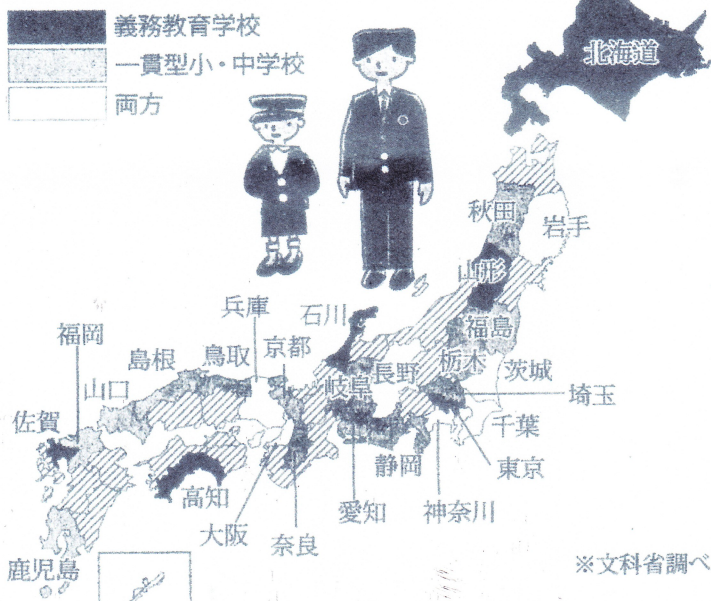
小中一貫教育には、小学6年、中学3年の学年の区切りを「4(前期)・3(中期)・2(後期)」など自由に設定できる「義務教育学校」と、小学6年、中学3年の枠を残したまま、ひと続きのカリキュラムで学ぶ「一貫型小・中学校」の2種類ある。「一貫型」には小中学生が同じ校舎で学ぶ「施設一体型」の他に「施設分離型」「隣接型」がある。文科省は、中学進

杉並で統合計画

学による環境の変化でいじめや不登校が増える「中一ギャップ」を解消する効果を期待している。

杉並区が計画しているのは「一貫型の施設一体型」だ。杉並第四小、杉並第八小、高円寺中を統合し、高円寺中の敷地に鉄筋コンクリート6階建ての新校舎を建設する。生徒は3校合わせると600人程度。費用は約80億円に上り、予算は既に区議会でも可決されている。現在の中学校舎より建物面積が広くなるため、校庭は約5200平方メートルから約

公立の小中一貫校が設置されている都道府県



※文科省調べ

(毎日新聞 2016.9.6 「くらしナビ 学ぶ」より)

瀬戸の平成34年度の学校は小中一貫大規模校？

瀬戸市は、学校規模を1000人程度としています。

はない。財政だけに焦点を当てるのではなく、子どもが最適な教育を受けるべきだ」

○「第八小(杉並区)の単学級が問題ならば、第四小と第八小の統合を検討する考え方もあるのではないか。区教委は住民への説明責任を果たし、理解を得る必要がある」

平成34年度の南山中学校区は以下の通り。

南山中(908人)
効範小(537人)
東山小(465人)
水南小(371人)
合計2281人

この地域では小中一貫校を2校つくるのだろうか？

さらに、水瀬中学区・幡山中学区・水野中学区は1600名ほどの大規模校となっている。

どう考えても無理。基本構想が間違っている。

学校統廃合
小中一貫教育

教育
・いいこと。魅力のアップ
ルをい。■義務教育9年間の指導体制
委・中1ギャップの発生率
市・一つとして不登校の生徒
数は概ね横ばい。
委・スクールカウンセラーの
影響か？
市・スクールカウンセラー、
担任の力が大きい。スク
ールソーシャルワーカー
の力も大きいのではない
か。小中の教員の協力も
ある。

(傍聴して)
教育長の権限が増大し、上
意下達の教育統制がきつくな
ってきているという感じを受
けた。

「新しい瀬戸の教育」「瀬戸
らしい教育の創造」と市当局
の方向は、見解の差をなさ

さに見ず、まるで国・文科省がいうがままの方針を下しているに過ぎない。

教育委員一人ひとりの教育に対する考えが一市民的見地で物足りない。委員の中に異を唱える人がいないのが残念でならない。

深見教育長は、「小中一貫校設立で目指す新しい教育の姿で、今提案しております。基本的に計画案に総力を上げて肉付けすること、瀬戸市での未来を切り拓いていきましよう。そのために、皆さんの力を是非ともお貸しください」と結んでいる。行政がいつから市民の上に立ったのか。

戦争法ゆるすな
 10.19行動

安倍政権の暴挙を忘れない！
 戦争法廃止！

10月19日（月）午後4時～5時
 新瀬戸駅前ロータリー付近
 スタンディング
 リレートーク など行います。

子どもたちの願いから発した
 ものではないといえる。

そもそもの出発点 瀬戸の

瀬戸市小中一貫教育に関する基本構想を斬る

シリーズ1
基本的な考えについて

瀬戸市は、9月「瀬戸市小中一貫教育に関する基本構想」を発表した。

まず、トップの基本的な考えの中で、平成28年度4月1日に「教育学校法等の一部を改正する法律」施行に伴い、小中一貫型学校の制度化の提言を引き出している。そして、「第2次瀬戸市教育アクションプラン」に「関係機関の連携による教育の推進」でとつてつたように「小中一貫教育の推進や小中一貫校の導入」を入れている。

戦争法ゆるすな
10・19行動

文科省は29日、今年度の全国学力テスト（全国学力・学習状況調査）の結果を公表した。

かねてから問題となっていた不適切な事例が明らかになった。中日新聞の記事から紹介する。

発達障害と持病のため朝起きるのがつらく遅刻や欠席が多い生徒に「朝しんどいだろうから来なくていい」と欠席を求める担任。(愛知県中)

発達障害の児童の答案を全体データに反映させなかった。(群馬県小)

学力の低い児童二人を別室に移動させ、教諭が回答を教えた。(鹿児島県小)

昨年度まで、低学力や欠席しがちな児童の答案を全体データから除いた。(大分県小)

背景には、テストが学校間の競争をあおっており、一部ではあるが教員も不正に手を貸しているという実態を重く受け止めなければならない。また、目の前の子ども達に確かな学力をつけるために自主的に創意工夫する自由を教師から奪うものとなっていることを指摘するものである。学校・地域を点数競争に追い込み、本末転倒の事態を招いている全国学テは直ちに廃止すべきである。

「表に出る話は氷山の一角だろう。学校や先生たちが点数を競わされ追い込まれた結果で、構造的に生み出された不正だ。テストは学力調査としての実効性を失っており、毎年何十億もつぎ込む意味があるのか疑わしい。いったん中止し、あり方を検証する時期に来ているのではないか」(名古屋大学大学院中嶋哲彦教授 2016. 9. 30中日新聞)

10月2日（日）
西陵地域交流センター



A group of people, including several women in the foreground, are seated around a long white table in a meeting room. They appear to be engaged in a discussion or presentation. A man is standing at the far end of the table, possibly presenting. The room has yellow curtains and a whiteboard in the background.

2日、山口正日福大教授を講師に迎え学習をしました。強引に20年開校を進める行政に対し、「学校統廃合と小中一貫教育を考える瀬戸市民の会準備会」を立ち上げていくことを参加者で確認しました。